

重粒子線がん治療施設が開院



直径20mの加速器が設置されている加速器室。ここで炭素イオンを光の速さの約70%まで加速し重粒子線を作り出す

8月から前立腺がん治療 12月には先進医療を開始



◀九州新幹線・新鳥栖駅前に立地する「サガハイマツト」。建屋は鉄筋コンクリート造り3階建て、延べ床面積は約7500㎡



十時忠秀理事長

九州国際重粒子線がん治療センター



▲水平と45度の2方向から重粒子線を照射する治療室A



▲治療計画の作成で利用されるCTシミュレーション室

最先端のがん放射線治療施設として注目が集まる九州国際重粒子線がん治療センター（通称・サガハイマツト）が6月1日、佐賀県鳥栖市原古賀町の九州新幹線・新鳥栖駅前に開院した。「サガハイマツト」は、炭素イオンを光の速さの約70%まで加速して作り出す重粒子線がんの病巣にピンポイントで照射し、がん細胞を死滅させる放射線治療施設。国内では4カ所目、九州では初めての治療施設となる。運営は佐賀県などが出資する公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団（十時忠秀理事長）。九州・山口地区の12大学や28の国立病院機構、九州各県医師会などと連携し、それぞれの垣根を越えた、がんの先進医療を進める。



▲水平と垂直2方向から照射する治療室B。将来は水平・垂直方向から照射して治療する治療室Cも設置される



▲治療室前の治療ホール

速器の設置や治療機器の搬入を進めてきた。すでに4月からは九州大学、久留米大学、佐賀大学の各大学附属病院の放射線科内に重粒子線がん治療の相談外来を開設、6月1日から本施設でセカンドオピニオン外来、紹介外来を開設し、患者の受け入れをスタートさせた。適応疾患として、今年度内は主に前立腺がんの治療を行い、12月からは先進医療の本格的な治療を始め、頭頸部がん、骨軟部腫瘍に対する治療、さらに来年3月を目安に肝臓がん、肺がんなど適応症例を順次広げていく予定という。

重粒子線治療は、がん組織への線量集中性に優れ、がん細胞殺傷効果も一段と高いため、体力の消耗や副作用も少なく、外来での治療が可能などの特徴があり、がん治療の大きな選択肢のひとつとなっている。（写真は内部を報道関係者に公開した5月10日に撮影）